

上級日本語学習者における後部要素が

3・4 拍かつ中高型の複合名詞のアクセント規則の 把握状況について

劉 汝源

摘要

为了掌握日语学习者在习得后部要素为 3, 4 拍兼中高型声调的复合名词的发音规则的情况, 本文结合了听力调查和书面调查的形式, 选取了 20 名高级水平的日语学习者进行了调查。调查分析显示, 根据发音规则的不同, 复合名词后部要素拍数长短的不同, 复合之后复合名词声调类型的不同, 学习者的掌握程度也会随之不同。其中, 学习者最容易掌握的复合名词声调是, 复合之后后部要素的声调不保存, 在复合名词的后部要素头拍下降的声调类型。然而, 对于后部要素的声调本应在复合之后保存下来的类型, 学习者也会错误的选择要素的声调不保存, 在后部要素头拍下降的声调类型。并且, 当后部要素的拍数变长时, 不仅声调不保存, 还会错误把下降位置前后移, 或者错误的选择平板型的复合名词的声调。

1. はじめに

本研究は, 上級日本語学習者を対象に, 後部要素 (以下 Y) が 3・4 拍かつ中高型の複合名詞を中心に, アクセント (以下ア) と規則の学習状況について, アンケート調査を行って分析したものである。

1.1 複合名詞の 3 タイプ分け

東京方言における複合名詞のアは, アの面から, 「1 単位の複合名詞」(以下 A 型), 「不完全複合名詞」(以下 B 型), 「2 語連続」の 3 タイプに分類できる。A 型は前部要素 (以下 X) と Y とともにア核が消え, ア核は Y の語頭拍に置く。それに対し, 「2 語連続」は X と Y の各語のアが保存される。中間的な B 型は, X のア核が消え, Y のアが保存される。

3 タイプに分けるが, 分類しにくいものは以下のように 2 つある。(1) X

のア核が消え、元の Y と複合名詞がともに Y の語頭拍に核を置く場合、複合名詞は A 型か B 型か分からないことになる。(2) X が平板型かつ元の Y と複合名詞がともに Y の語中に核を置く場合、B 型か 2 語連続か区別しにくい。便宜上、(1) の場合は A 型とし、(2) の場合が B 型として処理した。他の 2 語連続の複合名詞については、Y のアが保存されるので、本研究は 2 語連続の複合名詞を B 型として統計した。

本研究では、Y のアが保存される複合名詞のアと Y のアが保存されない複合名詞のアが共存する場合、このタイプの複合名詞を AB 型として扱う。

1.2 複合名詞アに影響する要因に関する先行研究

複合名詞アに影響する要因に関する先行研究として以下の 5 つが挙げられる。

①窪菌 (1997) は、3 タイプの分類は Y の拍数、形態素数やフット数によって分類できると主張している。Y ≥ 5 拍或いは Y ≥ 3 形態素であれば、B 型になる。例：南カリフォルニア＝、市立図書[]]館。Y が 3・4 拍の場合について、フット数によって分類できる。Y ≤ 2 フットの場合は A 型となる。例：南ア[]]メリカ。2 フット < Y ≤ 3 フットの場合は B 型となる。例：大作詞家＝。ただし、Y が 3・4 拍かつ中高型の場合は、フットは 2 ≤ であっても、B 型となる現象はしばしば見られる。例：大和ナゲ[]]シユ、西ニホ[]]ン ([]] はア核を、＝ は平板型を示す)。

②上野 (1999) は、一度「複合語化」(複合名詞ア規則の適用)によりアが与えられた単語は、上位の 2 次複合語に Y として組み込まれても、そのア型が保存されると主張している(以下「複合回数要因」)。例：針[]]師、庭[]]師→女針[]]師、見習い庭[]]師。

③松森他 (2012) によれば、Y が 4 拍語の場合には、3 拍語よりも B 型がはるかに多い(以下「拍数要因」)。しかし、Y が 4 拍でも、外来語以外の中高型では、Y の語末が特殊拍の場合、A 型となることが多い(以下「語末特殊拍要因」)。特に、Y が「4 拍」の「-2 型」で、かつ語末が特殊拍の場合には、Y の中高型が保存されないことが多い。例：ホーゲ[]]ン(方言)→チバ-ホ[]]ーゲン(千葉方言)。

④『新明解日本語アクセント辞典』(2015)によると、結合名詞の Y が漢語 2 字であれば、「後部が中高型の語の場合に限り、もとの高さの切れめまで高い。但し、この場合も拍数の多いものや、無声化で中高型になった語は、高さの切れめが前にずれる」(以下「語頭拍母音無声化要因」)。例：地方 ⊕[]]ほー の語頭に無声化が起って ⊕[]]ほー になり、複合して、奥羽地方 おうう ⊕[]]ほー になる。

⑤「連濁」という要因も複合名詞のアに影響する（以下「連濁要因」）。例：心 ここ]ろ，こころ]→歌心 うたご]ころ，砂糖 さと]う→角砂糖 かくご]とう。Yが3・4拍かつ中高型語の場合において，連濁を生じると，Yのアが保存されず，ア核はYの語頭拍に置くパターンが必ず存在する。詳細は劉（2018）を参照。

2. 調査方法とアンケートの構成

2.1 被調査者

本研究は，神戸市外国語大学の大学院生計20名（A～Tで示す）の上級日本語学習者を対象に，複合名詞のアの習得状況について調査した。

以下の表1は被調査者の内訳である。

表1 被調査者の内訳

被調査者	日本語学習歴	母語	被調査者	日本語学習歴	母語
学生A	4年	中国語	学生K	6年	中国語
学生B	8年	中国語	学生L	5年	中国語
学生C	5年6ヶ月	中国語	学生M	6年1ヶ月	中国語
学生D	6年	ノルウェー語	学生N	4年	中国語
学生E	3年2ヶ月	中国語	学生O	7年6ヶ月	中国語
学生F	7年	中国語	学生P	4年	中国語
学生G	5年3ヶ月	中国語	学生Q	5年	中国語
学生H	2年6ヶ月	中国語	学生R	7年	中国語
学生I	7年1ヶ月	中国語	学生S	3年	中国語
学生J	4年	中国語	学生T		中国語

被調査者の年齢は20代か30代前半である。ノルウェー語話者がひとりで，残り全員は中国語話者である。日本語学習歴は2年6ヶ月から8年の間で，被調査者全員は日本語能力試験N1に合格した上級日本語学習者である（「日本語学習歴」欄に記入せずアンケートを提出した被調査者はいるが，日本語学習歴が少なくとも3年以上あると推測される）。

そして，ア知識に関して，全員が「ア記号を見たことがある」と回答した。「音声を聞いて正確なア記号がつけられるか」という質問に対して，4つの選択肢の中「できない」と答えた人はいない（4つの選択肢はそれぞれ「できる」（5%）、「まあまあできる」（55%）、「あまりできない」（40%）、「できない」（0%）となる）。

2.2 アクセント調査用紙の構成

先行研究の諸規則に関して，被調査者の習得状況を確認するため，『日本

語発音アクセント新辞典』(2016)から複合名詞を抽出し、聞き取りテストを作成した。本研究のテストは、「問題一」(Yのアは1つしか存在しない)の31調査項目、「問題二」(Yのアは2つある)の13調査項目、「ア知識に関する質問」(アの知識の把握状況についての質問)で構成されている。複合名詞のアの数も1つある場合と2つある場合がある。テスト語はすべて有意味語である。聞き取りテストの詳細は稿末のアクセント調査用紙を参照。

表2は「問題一」、「問題二」の計44調査項目の構成内容を示す。

表2 聞き取りテストの調査項目の構成

分類条件			語数
Yの 保存状況	A型		20
	B型	B型(2語連続)	2
		B型(3形態素)	2
		その他	10
AB型		10	
Yの拍数	3拍語		21
	4拍語		21
	5拍語		1
	6拍語		1
Yの語種	和語		20
	漢語		21
	外来語		2
	混種語		1
Yのア型	中高型のみ		22
	中高型と他の型が共存		13
	平板型		5
	頭高型		2
	尾高型		2
複合名詞の 拍数	5拍語		17
	6拍語		11
	7拍語		10
	8拍語		5
	9拍語		1

2.3 聞き取りテストの音声

以下は「問題一」のテストの一部を示す。聞き取りテストの音声に関して、Xのアを読まず、Yアと複合名詞アだけを読み上げた。

- ⑰神宮 (じんぐ 〕う) → 明治神宮 □
- A. めいじじ 〕んぐう B. めいじじんぐ 〕う
- C. めいじじんぐう =
- ⑱カルシウム (カルシ 〕ウム) → 塩化カルシウム □

A. えんかカ ㄱ ルシウム B. えんかカルシ ㄱ ウム

C. えんかカルシウム＝

⑱ 沢山 (たくさ ㄱ ん) → 盛り沢山 □

A. もりだ ㄱ くん B. もりだく ㄱ さん

C. もりだくさ ㄱ ん D. もりだくさん＝

Yとしての単語のアは既に見てあり、選択必要な項目は複合名詞のアのみである。複合名詞全体のアの選択肢には、出現する可能性が低い「尾高型」が含まれない。選択肢は「ア核が前から後ろに」順番で並んでいる。調査項目の順番はランダムである。

テストの音声は、筆者が事前に録音したものである。Yのアと複合名詞のアは2回ずつ発音する。「問題一」のYは情報として提示するため、1回だけ発音する。調査項目の間に「ピン」というチャイム音があり、間隔（チャイム音を含む）は3秒である。例を含めて「問題一」と「問題二」の音声は合計21分10秒である。

テストは4回に分けて5人、4人、5人、6人で行った。音声は小規模な会議室や研究室で、騒音がない静かな環境でノートパソコンのスピーカから出力した。「問題一」が終わってから、「問題二」が始まる前に5～10分間の休憩をはさんだ。「ア知識」のアンケートは最後に行った。

3. アンケート調査の結果と分析

聞き取りテストでは、AB型が存在するため、複数選択が可能となる。被調査者は正解のアを選択すると、点数をもらえるが、間違ったアを選択しまうと、減点となる。採点基準は以下のように設定している。

正解選択数×1点を加算する；不正解選択数×(-0.5点)を加算する。

但し、0点以下にはしない。

3.1 「問題一」テスト結果と分析

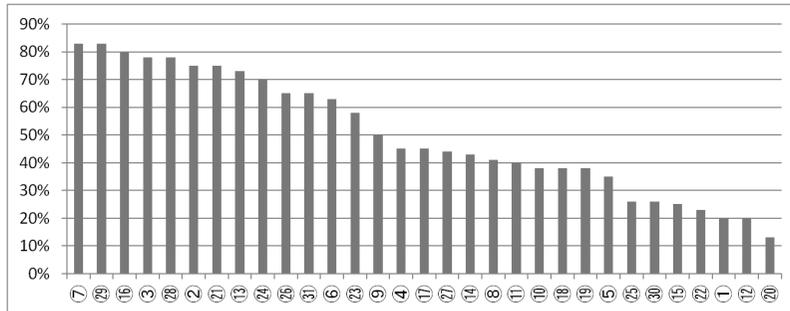
3.1.1 「問題一」調査項目別の得点率

「問題一」は、Yアを選択する必要がない。「問題一」の調査項目はYアが情報として提示されている。一方、「問題二」の調査項目は、Yアの結果によって、複合名詞アの選択に影響を与えるはずである。したがって、「問題一」と「問題二」を分けて統計した。まず、「問題一」の各調査項目の得点率から分析したい。

「問題一」の調査項目数は合計31調査項目である。表3は各調査項目の得点率を示す。各調査項目の得点率は13%～83%の間でかなりの差がある。

平均得点率は48%であり、高くない。

表3 「問題一」各調査項目の得点率



しかし、平均得点率が低いのに、得点率70%以上の調査項目がある。

- | | | |
|-------|--------------------|--------------|
| ⑦総理大臣 | そうりだ ㄥ いじん (83%) | A型 (Yが4拍頭高型) |
| ②虫眼鏡 | むしめ ㄥ がね (78%) | A型 (Yが3拍頭高型) |
| ⑩受験地獄 | じゅけんじ ㄥ ごく (80%) | A型 (Yが3拍尾高型) |
| ②雨男 | あめお ㄥ ところ (75%) | A型 (Yが3拍尾高型) |
| ③ごま油 | ごまあ ㄥ ぶら (78%) | A型 (Yが3拍平板型) |
| ④共同生活 | きょうどうせ ㄥ いかつ (70%) | A型 (Yが4拍平板型) |
| ⑨国境 | くにぎ ㄥ かい (83%) | A型 (Yが3拍中高型) |
| ⑪黒砂糖 | くろざ ㄥ とう (75%) | A型 (Yが3拍中高型) |
| ⑬校長先生 | こうちょうせんせ ㄥ い (73%) | B型 (Yが4拍中高型) |

以上はすべて正解がA型の複合名詞であり、Yの語頭拍にア核を置くパターンである。⑪黒砂糖と⑨国境のYは、中高型であるが、連濁現象が起こって、Yのアは保存しない。一方、⑬校長先生は連濁現象が起らないので、YAが保存された。次に、得点率30%以下の調査項目に注目したい。

- | | | |
|--------|-----------------------------------|-------------------|
| ⑳内歯車 | うちはぐ ㄥ るま (13%) | B型 (Yが4拍中高型) |
| ⑫女針師 | おんなはり ㄥ し (20%) | B型 (Yが3拍中高型) |
| ①味噌おでん | みそおで ㄥ ん (20%) | B型 (Yが3拍中高型) |
| ②画竜点睛 | が ㄥ りょう・てんせい = (23%) | B型 (Yが4拍平板型の2語連続) |
| ⑮大和撫子 | やまとなで ㄥ しこ (25%) | B型 (Yが4拍中高型) |
| ⑳現金取引 | げんきんとり ㄥ ひき,
げんきんと ㄥ りひき (26%) | AB型 (Yが4拍中高型) |
| ⑮岐阜団扇 | ぎふうち ㄥ わ,
ぎふう ㄥ ちわ (26%) | AB型 (Yが3拍中高型) |

②の例を除き、以上すべては正解が中高型の Y が保存されるパターンである。得点率が70%以上の例と比較して、B型の得点率はA型より低い傾向が見られるが、A型とB型との比較は3.1.2節で詳しく説明する。

3.1.2 「問題一」複合名詞A型別の得点率

前節は「得点率が70%以上の調査項目はA型であり、得点率が30%以下の調査項目がB型である」ことから、「A型の得点率はB型より高い傾向が見られる」と推測したが、本節は、調査項目をA型、B型、AB型に分け、項目別得点率から詳しく分析したい。

表4、表5と表6はそれぞれ「問題一」における正解がA型、B型、AB型の調査項目の、被調査者の得点率を示す。A型調査項目の平均得点率は71%であり、B型調査項目の平均得点率は39%であり、AB型調査項目の平均得点率は37%である。セルの色が濃いのは正解選択の回答であり、中間的な色は正解選択と不正解選択が混ざった回答であり、白いのは不正解選択の回答である。調査項目のAに影響する要因は表の一番上に示す。形態素の数は『明鏡国語辞典 第二版』(2011)によって示す。

AはA型の回答。BはB型の回答。DはYアが保存されない平板型の回答。CはYアが保存されない中高型の回答で、+/-がA核位置のずれる方向を示す{元のYが無核Aの場合はC[#]で示す}。-は前にずれ、+が後にずれることを示す。数字はずれた拍数を示す。

例：⑮撫子 などで ㄱ しこ → 大和撫子

- | | |
|------------------------------|---------------|
| A. やまとな ㄱ でしこ | B. やまとなで ㄱ しこ |
| C ⁺¹ . やまとなでし ㄱ こ | D. やまとなでしこ = |

表4、表5、表6から分かるように、A型の平均得点率(71%)が最も高く、他の型より圧倒的に高い。B型(39%)とAB型(37%)の平均得点率は同じぐらいだが、B型のほうがやや高い。AB型では、A型とB型のAが共存するため、被調査者はA型だけを選択しても、B型という選択があり、完全正解にならない。本研究の採点基準によって、間違った選択をすることや正解がすべて選択しない限り、点数が急減する(完全正解の得点と比べた場合)。その中で、AB型(かつ『日本語発音アクセント新辞典』によるB型が第一ア)調査項目の平均得点率は36%である。それに対して、複合名詞のAがAB型(かつ『日本語発音アクセント新辞典』によるA型が第一ア)の調査項目では、平均得点率がやや高く、38%である。

表 4 「問題一」 A 型調査項目の得点率

Y	4拍	3拍	3拍	3拍	3拍	3拍	3拍	4拍	4拍	4拍	3拍	学生別 得点率	
	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	1形態素 語末特 殊拍 連濁	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	1形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	1形態素 語末特 殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末特 殊拍 連濁	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末非 特殊拍 連濁	2形態素 語末特 殊拍 連濁	2形態素 語末特 殊拍 連濁		
調査 項目	⑦	⑳	⑯	③	⑳	②	㉑	㉒	⑥	㉓	④		
学生C	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	100%	
学生T	A	A	A	A	A	A	A	A	D	A	A	91%	
学生I	AD	A	A	A	A	A	A	AD	A	A	A	91%	
学生Q	A	AD	A	A	A	A	A	A	A	AB	A	91%	
学生G	A	A	A	A	A	AD	A	A	A	A	B	86%	
学生M	A	A	AD	A	A	A	A	A	A	A	D	86%	
学生E	A	A	A	A	D	A	A	A	A	A	B	82%	
学生O	A	A	A	A	A	A	A	A	D	B	A	82%	
学生P	A	A	AD	A	A	A	AD	AD	A	AD	A	82%	
学生S	AD	A	A	A	AD	A	A	AD	A	AD	D	73%	
学生N	A	A	A	A	A	AD	AD	AD	D	AD	AD	68%	
学生F	A	A	A	AD	AD	A	A	A	D	B	D	64%	
学生L	A	AD	AD	AD	A	AD	A	AD	A	D	AD	64%	
学生A	A	B	A	A	A	AC ⁻¹	D	AD	A	AD	D	AD	59%
学生B	AD	AD	AD	A	AD	A	AD	AD	A	AD	AD	BD	59%
学生J	A	A	A	AD	A	AD	A	AD	D		B	59%	
学生D	D	A	A	D	D	A	D	A	B	A	A	55%	
学生H	A	AD	AD	AD	AD	A	D	AD	AD	D	AD	50%	
学生R	C ⁺²	A	C ⁻¹	D	A	C ⁻¹	A	D	A	A	D	46%	
学生K	A	AD	AD	AD	AD	D	D	D	AD	A	D	41%	
項目別 得点率	83%	83%	80%	78%	78%	75%	75%	70%	63%	58%	45%	71%	

表 5 「問題一」 B 型調査項目の得点率

Y	2語連続										2語連続				学生別 得点率
	3拍	4拍	4拍	3拍	2語連続 2形態素 語末特 殊拍 不連濁	3拍	5拍	5拍	4拍	4拍	2語連続 2形態素 語末特 殊拍 不連濁	3拍	3拍	4拍	
調査 項目	⑬	⑳	㉑	⑨	⑭	⑪	⑩	⑱	⑤	⑮	㉒	①	⑫	㉓	
学生M	B	B	B	B	B	B	B	B	BD	BD	A	B	A	B	79%
学生Q	B	B	B	AB	AB	AB	B	B	AB	AD	D	BD	B	BD	64%
学生C	B	B	B	B	A	AB	C [*]	B	AB	AB	B	A	B	D	61%
学生A	AB	B	B	ABD	AB	BD	C [*]	B	BD	B	AD	D	BD	D	50%
学生J	B	B	B	B	B	A	B	A		A	B	A	A	AD	50%
学生L	B	A	B	A	AB	B	AB	A	D	B	AD	B	A	B	50%
学生G	B	B	B	B	A	B	C [*]	B	BD	D	A	A	A	AD	46%
学生B	BD	B	B	A	A	AB	B	AB	BD	A	AD	B	A	A	43%
学生P	AB	B	B	AB	AB	AB	AB	A	AB	A	AD	AB	BD	AD	43%
学生K	B	B	A	B	B	A	B	A	BD	D	A	D	A	A	39%
学生O	B	B	B	AB	A	A	A	D	BD	BD	B	A	A	D	39%
学生I	B	AB	AB	A	A	AB	AC [*]	A	AB	B	B	A	A	A	36%
学生N	AB	B	B	B	AB	AD	A	B	C ⁺¹	D	AD	D	A	D	36%
学生E	A	A	A	B	B	A	A	AD	AB	AB	AD	A	B	D	29%
学生H	BD	BD	BD	ABD	AB	AB	B	B	BD	AD	AD	A	D	AD	29%
学生R	D	B	B	B	A	B	A	A	D	A	A	A	D	C ⁺¹	29%
学生F	B	A	D	A	A	AB	AC [*]	A	B	AD	AB	AD	A	AD	21%
学生D	B	A	A	A	B	A	C [*]	D	A	D	D	D	A	A	14%
学生S	B	AD	D	AB	AB	A	AC [*]	A	A	A	AD	A	A	D	14%
学生T	A	A	A	A	A	A	C [*]	A	A	A	A	A	A	A	0%
項目別 得点率	73%	65%	65%	50%	43%	40%	38%	38%	35%	25%	23%	20%	20%	13%	39%

また、表4から表6の3つの表では、Yの拍数が多いほど、得点率が低くなるように見える。そこで、Yの拍数によって、「問題一」の調査項目を3拍、4拍、5拍に分け、それぞれの平均得点率を計算した。その結果、Yが3拍の調査項目の平均得点率は52%であり、Yが4拍の調査項目の平均得点率が45%であり、Yが5拍の調査項目の平均得点率が38%である。

3つの表では、A型の選択数が圧倒的に多い。被調査者は複合名詞のア規則を「複合してYの語頭拍にア核が置かれる」として覚える傾向がみられる。被調査者は複合名詞のア規則をタイプ分けして覚える意識が弱いことが推測される。

表6 「問題一」AB型調査項目の得点率

Y	4拍	3拍	3拍	4拍	3拍	4拍	学生別 得点率
	2形態素 語末特 殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末特 殊拍 語頭拍 無声化	2形態素 語末非 特殊拍 連濁	2形態素 語末特 殊拍 連濁	2形態素 語末非 特殊拍 連濁不 関与	2形態素 語末非 特殊拍 不連濁	
調査 項目	(17)	(27)	(8)	(19)	(25)	(30)	
学生C	AB	A	A	AB	A	B	67%
学生J	A	A	A	A	A	A	50%
学生O	A	A	A	A	A	B	50%
学生T	A	A	A	A	A	A	50%
学生I	AD	A	A	A	A	B	46%
学生M	A	A	A	A	A	D	46%
学生S	A	AD	AB	A	AD	AD	46%
学生F	A	A	A	AC ⁻¹ D	A	B	42%
学生P	AD	A	AD	AD	AD	AB	42%
学生G	A	A	B	B	D	AC ⁺¹	38%
学生L	A	A	D	AD	B	B	38%
学生Q	A	A	B	ABD	AD	C ⁺¹	38%
学生D	A	A	A	A	D	D	33%
学生H	A	AD	A	AD	AD	BD	33%
学生K	A	A	A	A	D	D	33%
学生B	AD	A	A	D	AD	D	25%
学生A	BD	A	D	BD	D	D	17%
学生E	AD	D	A	AD	D	D	17%
学生R	B	A	D	C ⁻¹	D	C ⁺¹	17%
学生N	AD	AD		D	D	D	8%
項目別 得点率	45%	44%	41%	38%	26%	26%	37%

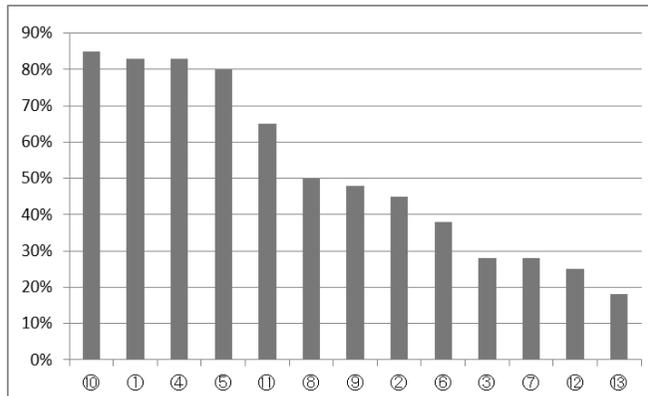
3.2 「問題二」テスト結果と分析

3.2.1 「問題二」調査項目別の得点率

前節はYのアが1つしかない「問題一」の調査項目の得点率を分析した。「問題二」の複合名詞のYが元々2つのアを持つため、ア規則の適用は「問題一」より複雑である。被調査者の得点率に影響を及ぼすことが予測される。本節は「問題二」の調査項目の得点率を分析する。

「問題二」は、調査項目数が合計 13 問である。表 7 は各調査項目の得点率を示す。各問の平均得点率は 47% であり、「問題一」とわずかな差である。複合名詞アの各調査項目の得点率は 18%～85% の間でかなりの差がある。

表 7 「問題二」各調査項目の得点率



「問題二」の調査項目はすべて、Y のアは中高型とその他の型が共存する。Y が 3・4 拍の複合名詞のア規則によって、Y が中高型以外のアの場合、複合して A 型の複合名詞になる。中高型以外のア型の影響を受けて、「問題二」調査項目では、B 型のみの場合はない。A 型か AB 型になることは、複合名詞ア規則から予測される。

前節と同じく得点率が 70% 以上の調査項目と得点率 30% 以下の調査項目から分析したい。得点率 70% 以上の調査項目は以下の通りである。

⑩ 関東地方 かんとうち ㄴ ほう (85%) A 型 (Y が 3 拍中高型/頭高型)

① 親心 おやご ㄴ ころ (83%) A 型 (Y が 3 拍中高型/尾高型)

④ 新若布 しんわ ㄴ かめ (83%) A 型 (Y が 3 拍頭高型/中高型)

⑤ 紙鋏 かみば ㄴ さみ (80%) A 型 (Y が 3 拍尾高型/中高型)

得点率 30% 以下の調査項目は以下の通りである。

⑬ 大海原 おおう ㄴ ならば, AB 型 (Y が 4 拍平板型/中高型)

おおうな ㄴ ばら (18%)

⑫ 大金持ち おおがね ㄴ もち, AB 型 (Y が 4 拍中高型/尾高型)

おおが ㄴ ねもち (25%)

⑦ 電気剃刀 でんきか ㄴ みそり (28%) A 型 (Y が 4 拍中高型/尾高型)

③ 奥年寄 おくど ㄴ しより (28%) A 型 (Y が 4 拍中高型/尾高型)

以上から分かるように、得点率が 70% 以上の調査項目はすべて Y が 3 拍の項目であり、得点率が 30% 以下の調査項目はすべて Y が 4 拍の項目であ

る。Yが4拍の調査項目において、被調査者が誤答するパターンについて、複合名詞アの平板型の選択率が高い。70%以上のものはすべてA型であるが、30%以下のものはA型以外に、AB型も見られる。

3.2.2 「問題二」複合名詞ア型別の得点率

前節において、「問題二」調査項目における、正解がA型となる項目の平均得点率は、正解がAB型となる項目より高いことが分かった。そして、Y拍数が得点率に影響することを推測した。本節は、調査項目をA型とAB型に分け、項目別得点率とYアの選択から詳しく分析したい。

表8 「問題二」A型調査項目の項目別得点率とYアの選択

Y	3拍		3拍		3拍		4拍		4拍		学生別 得点率
	2形態素		1形態素		2形態素		2形態素		2形態素		
	語末特殊拍	語末非特殊拍	語末特殊拍	語末非特殊拍	語末特殊拍	語末非特殊拍	語末特殊拍	語末非特殊拍	語末特殊拍	語末非特殊拍	
不連続かつ語 頭拍無声化	連続	連続不関与	連続	連続	連続	連続	不連続	連続	不連続		
学生	調査項目	⑩	①	④	⑤	⑪	③	⑥	⑧	⑦	
学生F	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 A	頭 A	中 A	頭 A	中 A	中 B	尾 A	中 A	89%
学生O	Yア 複合名詞ア	中 A	尾 A	頭 A	尾 A	頭 A	中 A	中 A	尾 AD	尾 AD	89%
学生M	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 A	中 A	尾 A	頭 A	尾 A	尾 A	尾 AD	中尾 B	83%
学生C	Yア 複合名詞ア	中 A	尾 A	頭 A	尾 A	頭 A	尾 A	中 A	尾 A	中 C	78%
学生S	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 AD	頭 A	中 A	頭 A	尾 AD	中尾 D	尾 A	中 A	78%
学生T	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 A	頭 A	尾 A	頭 A	中 A	中 AD	尾 A	中 AB	78%
学生I	Yア 複合名詞ア	中頭 AB	尾 A	頭 A	尾中 AB	頭 A	中尾 A	中尾 A	中尾 C, D	尾 AC	72%
学生E	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 AD	頭 A	尾 AD	中 A	尾 D	中 A	尾 A	尾 C	67%
学生G	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 AD	頭 A	尾中 A	頭 A	尾 B	中 D	尾 D	尾 AB	67%
学生P	Yア 複合名詞ア	頭 A	中尾 A	頭 AD	尾中 AD	中 A	中尾 AD	中尾 AD	尾 AD	中尾 AD	67%
学生B	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 A	頭 AD	中 A	尾 A	中 AD	中 BD	尾 C, D	尾 C, D	56%
学生H	Yア 複合名詞ア	頭 AD	尾 AD	頭 A	尾 A	中 A	尾 AD	中 D	尾 BD	尾 AD	56%
学生K	Yア 複合名詞ア	中頭 A	尾 AD	頭 AD	尾 A	尾 A	中尾 D	中尾 AD	尾 D	尾 AD	56%
学生Q	Yア 複合名詞ア	中頭 AB	尾 AD	頭 A	尾 A	中 A	中尾 AD	中 B	尾 B	尾 B	50%
学生J	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 A	頭 A	中 A	尾 D	中 D	中尾 D	尾 C, D	尾 C, D	44%
学生R	Yア 複合名詞ア	頭 A	尾 A	頭 A	中 D	尾 D	中 B	中尾 B	尾 C	尾 C	44%
学生L	Yア 複合名詞ア	頭 A	中尾 A	頭 A	尾 D	中 AD	尾 D	中尾 B	中尾 D	尾 D	39%
学生N	Yア 複合名詞ア	中頭 AD	尾 AD	頭 AD	尾中 AD	頭 D	尾 AD	中尾 A	中尾 C, D	尾 C, D	39%
学生D	Yア 複合名詞ア	頭 A	中 A	頭 D	中 A	頭 D	尾 D	中 B	尾 C	中 C	33%
学生A	Yア 複合名詞ア	中頭 ABD	尾 A	頭 AD	尾 BD	頭 D	尾 BD	中尾 ABD	尾 BD	中尾 BD	17%
項目別得点率		85%	83%	83%	80%	65%	50%	38%	28%	28%	51%
Yア 中高型		40%	15%	10%	45%	25%	25%	80%	25%	40%	
選択率 中高型以外		75%	90%	85%	70%	50%	85%	50%	90%	70%	

表8は「問題二」A型項目の項目別の得点率とYアの選択を示す。「問題二」の13調査項目では、正解としてのYアが2つある（中高型と他のA型

が共存する)。Yアが選択必要項目であるが、すべての選択肢を選べば、正解になるので、採点はしない(採点基準は3節の冒頭による)。複合名詞ア規則によって、Yアが中高型以外の場合、A型になる。Yアが中高型以外のアを選択すると、複合名詞のアはA型を選択するはずであるが、被調査者はこの規則にそって選択したわけでもない。項目⑧、③、⑦において、被調査者はYアが中高型以外アの選択率が高いが(70%以上)、得点率が低く、50%以下である(A型項目の正解はすべてA型であるため、A型数と得点率が正比例となる)。一方、項目⑩、①、④と⑤において、被調査者はYアが中高型以外アの選択率が高く(70%以上)、得点率も高い(80%以上)。

表9 「問題二」AB型調査項目の項目別得点率とYアの選択

Y		3拍		4拍		学生別得点率
		1形態素	2形態素	2形態素	2形態素	
		語末非特殊拍	語末特殊拍	語末非特殊拍	語末非特殊拍	
		不連濁	不連濁かつ語頭拍無声化	連濁	連濁不関与	
学生	調査項目	⑧	③	⑦	⑩	
学生C	Yア	中	中	中	中	50%
	複合名詞ア	A	A	C ⁻¹	B	
学生F	Yア	中	頭	尾	平	50%
	複合名詞ア	A	A	C ⁻¹	B	
学生J	Yア	中	頭	尾	平	50%
	複合名詞ア	A	A	A	A	
学生I	Yア	平	頭	中尾	平中	44%
	複合名詞ア	AD	A	A	B	
学生P	Yア	中平	頭	中尾	平中	44%
	複合名詞ア	AB	AD	AD	BD	
学生B	Yア	中	頭	尾	中	38%
	複合名詞ア	AB	AD	C ⁻¹ D	D	
学生L	Yア	中	頭	中	平中	38%
	複合名詞ア	A	A	C ⁻¹	D	
学生O	Yア	中平	頭	尾	中	38%
	複合名詞ア	A	A	A	D	
学生T	Yア	中	中	中尾	中	38%
	複合名詞ア	A	A	AD	AD	
学生A	Yア	中平	頭中	中尾	平	31%
	複合名詞ア	ABD	A	BD	C ⁻¹ D	
学生E	Yア	平	中	尾	平	31%
	複合名詞ア	A	A	C ⁻¹ D	D	
学生H	Yア	平	頭中	尾	平中	31%
	複合名詞ア	AD	A	AD	AD	
学生M	Yア	平	頭	尾	平中	31%
	複合名詞ア	AD	A	C ⁻¹ D	BD	
学生Q	Yア	中平	頭	中尾	平	31%
	複合名詞ア	AD	A	C ⁻¹ D	BD	
学生S	Yア	中平	頭	中尾	平中	31%
	複合名詞ア	AD	A	AD	AD	
学生D	Yア	中	頭	尾	平	25%
	複合名詞ア	A	A	D	D	
学生G	Yア	中	頭	尾	平	25%
	複合名詞ア	A	A	D	D	
学生R	Yア					25%
	複合名詞ア	A	A	D	D	
学生K	Yア	中平	頭	尾	平	13%
	複合名詞ア	AD	AD	D	D	
学生N	Yア	中平	頭	中尾	平中	13%
	複合名詞ア	AD	AD	BD	C ⁻¹	
項目別得点率		48%	45%	25%	18%	34%
Yア 中高型		75%	25%	45%	55%	
選択率 中高型以外		55%	80%	85%	75%	

表9は「問題二」AB型項目の項目別の得点率とYアの選択を示す。A型項目の場合と比べると、Yアは頭高型も多いものの、中高型アの選択率が高いが、得点率が低い。被調査者はB型を選択せず、Yアが保存されない中高型のC型を選択するか、平板型のD型を間違って選択した。

また、Y拍数と得点率の関係について、「問題二」の項目における複合名詞のア型の正解がA型であっても、AB型であっても、Yが3拍の項目の得点率はYが4拍の項目の得点率より高い。表8、表9から分かるように、Yが3拍の場合はA型になりやすく、Yが4拍の場合が平板型ア(D)になりやすい傾向がみられる。

3.3 全項目の得点率

3.1節、3.2節では、「問題一」、「問題二」の調査項目をそれぞれで分析した。結果、A型複合名詞の調査項目の得点率が最も高く、B型とAB型複合名詞の項目の得点率が低いことが分かった。本節は「問題一」、「問題二」すべての調査項目について、Yの拍数、複合名詞ア、Yのア型からまとめて分析する。

表10が示しているように、全項目において、拍数が長いほど、調査項目の得点率が下がる。

また、Yの拍数やYのア型に関係せず、A型複合名詞の得点率が最も高い。被調査者にとっては、このタイプのア規則は最も習得しやすいと予測される。Yが3・4拍の場合において、B型複合名詞とAB型複合名詞の得点率は低い、B型の得点率がわずかに高い。

表10 全項目の得点率

Y拍数	複合名詞ア	Yア	調査項目	得点率		
3拍	A型	中高型と他のアと共存	問題二①④⑤⑩⑪	79%	76%	56%
		中高型以外	問題一②③⑬⑳	68%		
		中高型	問題一④⑫⑲	68%		
	B型	中高型	問題一①⑨⑪⑫⑬	41%	41%	
		中高型と他のアと共存	問題二②⑨	46%	41%	
	AB型	中高型	問題一⑧⑳㉑㉒	37%		
4拍		A型	中高型以外	問題一⑦⑳	76%	52%
	中高型		問題一⑥㉓	60%		
	中高型と他のアと共存		問題二③⑥⑦⑧	33%		
	B型	中高型	問題一⑤⑮⑳㉑㉒	41%	38%	
		中高型以外	問題一⑭㉑	36%		
	AB型	中高型	問題一⑰⑱㉑	36%	30%	
		中高型と他のアと共存	問題二⑫⑬	21%		
	5拍	B型	中高型以外	問題一⑩⑰	38%	

そして、Yが中高型の場合、規則が複雑で、A型、B型、AB型の3つの

可能性がある。Yが中高型以外であれば、大部分がA型複合名詞になる。Yが中高型と他のアと共存する場合、A型かAB型になる。複雑になるほど得点率が下がると予測されるが、必ずしもこのようになっていない。被調査者は「YのA型」を基準として、複合名詞のAを選んでいるのかどうか、5節で詳しく分析する。

3.4 誤答パターン

3.1節、3.2節では、被調査者選択状況を示し、各調査項目の得点率を中心に分析した。本節では、被調査者が間違っただ複合名詞のAを選択する時、どのように間違っているのか、誤答パターンについて詳しくみたい。

表11は、すべての調査項目において、被調査者の誤答パターン、そのパターンの数と割合を示す。全体的に、被調査者は間違っただ平板型の複合名詞A(D)を選んでしまう傾向が見られる。

正解がA型の複合名詞の調査項目において、平板型(D)を含むの誤答の数が圧倒的に多い。そのうち(Dを含む誤答は141個)、A型とD型の選択肢両方を選んだ場合(AD)がもっとも多く(84個)、D型を選んだ場合が二番目に多い(42個)。一方、Bを含む誤答(29個)とDを含む誤答(17個)の数は、すべて30個以下である。

表11 誤答パターンの分類

複合名詞 正解のア	調査項目	誤答パターンの 数と割合		正解パターンの 数と割合	
正解が A型の 複合名詞	問題一②③④⑥⑦⑩ ⑪⑫⑭⑮⑯ 問題二⑩①④⑤⑧⑩ ⑬⑰ 調査項目 20個 × 被調査者 20名	Dを含む 誤答	35% (141)	A	55% (219)
		Bを含む 誤答	7% (29)		
		Cを含む 誤答	4% (17)		
正解が B型の 複合名詞	問題一①⑤⑨⑩⑪⑫ ⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲ 調査項目 14個 × 被調査者 20名	Aを含む 誤答	53% (147)	B	29% (82)
		Dを含む 誤答	24% (66)		
		Cを含む 誤答	4% (10)		
正解が AB型の 複合名詞	問題一③⑦⑯⑱⑲⑳ 問題二②③⑫⑬ 調査項目 10個 × 被調査者 20名	Dを含む 誤答	41% (81)	A B AB	53% (106)
		Cを含む 誤答	6% (11)		

正解が B 型の複合名詞の調査項目において、被調査者は間違っ A 型の複合名詞を選んでしまう傾向が見られる。誤答パターンとして、A を含む誤答の数 (147 個) はもっとも多い。C を含む誤答の数 (10 個) はもっとも少ない。D を含む誤答の数 (66 個) は中間的である。

正解が AB 型の複合名詞の調査項目において、平板型 (D) が含まれる誤答の数 (81 個) がもっとも多い。そのうち、AD (37 個)、D (30 個) の誤答の数がはるかに多い。なお、正解が AB 型の複合名詞の調査項目の場合は、完全正解のパターンが AB となる。被調査者が、A または B の 1 つしか選んだ場合、完全正解にならないが、間違っていない。したがって、A と B の回答は正解パターンとして表に挙げている。

表 12 Y の拍数別の誤答パターンの分類

3拍					4拍				
調査項目	選択数と割合				調査項目	選択数と割合			
問題一① ②③④⑧ ⑨⑪⑫⑬ ⑩⑭⑮⑰ ⑱⑲ 問題二① ②④⑤⑥⑨ ⑩⑪ 調査項目 22個 × 被調査者 20名	Aを含む 誤答	AD	72	30% (131)	問題一⑤ ⑥⑦⑩⑭ ⑮⑰⑱⑲ ⑳㉑㉒㉓ ㉔㉕㉖ 問題二③ ④⑦⑧⑫ ⑬ 調査項目 20個 × 被調査者 20名	Dを含む 誤答	AD	68	41% (165)
		A	38				D	59	
		AB	18				BD	24	
		ABD	2				CD	12	
	Dを含む 誤答	AD	72	27% (119)		Aを含む 誤答	AD	68	32% (128)
		D	36				A	36	
		BD	8				AB	20	
		ABD	2				AC	2	
	Bを含む 誤答	B	4	7% (32)		Bを含む 誤答	ABD	1	14% (57)
		ABD	2				BC	1	
		C	2				ABD	1	
	Cを含む 誤答	C	2	0.7% (3)		Cを含む 誤答	C	C ⁻¹	9
ACD		1	C ⁺¹		4				
AC ⁻¹ D		1	C ⁺²		1				
Cを含む 誤答		CD	CD ⁻¹		10		12	7% (29)	CD ⁺¹
	AC		1	2					
	AC ⁺¹	1	AC ⁻¹		1				
	ACD	1	ACD ⁻¹	1					

表 12 は Y の拍数別、誤答パターンの分類を示す。すべての調査項目において、「Y が 3 拍の場合は A 型になりやすく、4 拍の場合は平板型 (D) になりやすい」という傾向がみられる。表からわかるように、3 拍の場合、被調査者の A を含む誤答の割合は 4 拍の場合より高い。一方、4 拍の場合の平

板型 (D) を含む誤答の割合は、3 拍より高い。

また、表 12 からわかるように、保存されない中高型 (C) の誤答について、3 拍の調査項目の数 (22 個) と 4 拍の数 (20 個) は同じぐらいだが、C の選択数は 10 倍ぐらい差がある。被調査者に、「拍数が多いほど、ア核がずれやすい」という傾向がみられる。そのうち、3 拍の場合、保存されない中高型のア核が全部前にずれるが、4 拍の場合は前にずれたり、後にずれたりする。

4. 前節までで分析しなかった先行研究の複合名詞アに影響する要因

1.2 節で取り上げた先行研究によれば、複合名詞アに影響する要因として 5 点あると指摘されている。5 点の中で、Y の拍数や Y の形態素数を中心に取り扱ってきた。本節は、その他の 4 点の要因が、どのように得点率に影響するのかを分析したい。この 4 点の要因について、各要因に関わる項目が表 13 のように得点率の順番に並んでいる。

表 13 先行研究の複合名詞アに影響する要因と調査項目の得点率

要因		複合名詞ア型	調査項目	得点率	
連濁	Y拍数3	A型	問題一④⑧⑫⑯	64%	52%
	Y拍数4		問題二①⑤⑪	40%	
Y語末特殊拍	Y拍数3	A型が多い、かつ Y3拍のA型がY4 拍より多い	問題一①④⑪⑬⑮⑲⑳	55%	51%
	Y拍数4		問題二②⑩⑱	44%	
Y語頭拍無声化	Y拍数3	A型かB型	問題一③⑦ 問題二②⑩	45%	
2次複合	Y拍数3	B型	問題一⑫	20%	16%
	Y拍数4		問題一⑳	13%	

連濁する場合は、正しい複合名詞のアは A 型になる。3.1.2 節、3.2.2 節から分かるように、「問題一」、「問題二」すべての調査項目において、A 型の項目の得点率が高い。しかし、A 型に属する Y が 4 拍「連濁」の場合は、得点率が 40% しかない。一方、Y が 3 拍の場合、得点率が高い。

Y が語末特殊拍の場合、3・4 拍複合名詞は、A 型になりやすいが、一概に言えない。①味噌おでんや⑩西日本など Y のアが保存された例もある。Y が 3 拍の調査項目の得点率は Y が 4 拍の調査項目より高い。

Y が語頭拍無声化の場合は、正しいアが AB 型のアになりやすい。被調査者の選択状況から見ると、複数選択する人が少ないため、このタイプの調

査項目完全正解になりにくい。そして、AB型の調査項目では、正解の選択を1つだけ選んだ場合、完全正解の半分の点数が付けられる。これは得点率が45%になる原因の1つであろう。

複合名詞が2次複合の場合は、得点率が最も低い。先行研究によれば、複合名詞というのはア上の複合名詞である。被調査者にとって、⑫女はり師のようなYの拍数が少ない単語は、複合名詞であるか単純語であるか、判断することが難しいと考えられる。「問題二」の⑨のY「卵」は、「玉子」とも書くが、日常的によく使われる単語であるため、一語としての意識は高いので、単純語として扱われている。一方⑫女はり師の場合は、使用頻度が低く、単純語か複合語か判断しにくい。

5. 学生別得点率とアクセント規則の選択状況

被調査者が持っているア知識を把握するため、聞き取りテストの調査項目の後、ア知識やア規則に関するアンケートを行った。詳細内容は稿末「アクセントに関する知識」の調査項目を参照。

表14は被調査者が認識しているYが3・4拍の複合名詞の規則を示す(黒いセルは正解である。空欄は被調査者がア規則を選択しなかったことを示す)。先行研究の複合名詞ア規則によって、Yが中高型であれば、複合してア核はYの語頭拍に置く或いは中高型が保存される。Yが中高型以外の場合は、複合してア核はYの語頭拍に置く。表14からわかるように、被調査者は全く規則を知らないわけではない。しかし、完全に正しい規則を把握している人はいない。

被調査者のア規則の選択状況を見ると、Yが頭高型の場合は、3・4拍とも頭高型になる傾向が見られる。Yが中高型の場合は、3拍より4拍の中高型の選択数が多い。Yが尾高型・平板型の場合は、平板型になる傾向が見られる。特にYが4拍かつ平板型の場合、平板型(Yが3・4拍かつ平板型の場合、Bが間違った平板型の回答である)の選択数をもっとも高い。全体的に、Yが4拍の複合名詞Yアの核位置は、Yが3拍の場合に比べると、後に移動する傾向が見られる。

表 14 ア規則について被調査者の選択状況

Y拍数	3拍				4拍				全ての項目 学生別得点率	規則 学生別得点率		
	Yア	Y頭	Y中	Y尾	Y平	Y頭	Y中	Y尾			Y平	
複 合 名 詞 の ア 型	学生C	A	A	A	B	A	BC ⁻¹	A	B	80%	55%	
	学生M	AD	B	AD	AB	A	AB	A	AB	74%	60%	
	学生O	A	A	D	AB	A	ABD	D	AB	66%	50%	
	学生Q	A	BD	A	A	A	AB	C ⁻¹	AB	65%	60%	
	学生I	A	A	A	A	AD	A	AC ⁻²	C [#]	64%	60%	
	学生P	AD	AD	A	A	A	ABD	AD	ABC [#]	61%	60%	
	学生G	A	A	D	A	AC ⁺¹	AB	AC ⁻²	AC [#]	59%	55%	
	学生J						BC ⁻¹		B	57%	5%	
	学生F	A	B	A	B	A	B	D	B	56%	40%	
	学生T	A	B	D	B	A	B	D	B	54%	30%	
	学生S	A	AB	A	AB	AD	A	AD	AB	52%	70%	
	学生L								B	51%	0%	
	学生B	AD	A	C ⁻¹	A	D	D	D	C [#]	49%	25%	
	学生E	A	A	A	AB	C ⁺¹	C ⁻¹	C ⁺¹	D	B	49%	35%
	学生H	AD	B	AD	AB	A	ABD	A	AB	46%	65%	
	学生K	AD	B	AD	AB	A	ABD	A	AB	42%	65%	
	学生A	A	B	D	C [#]	A	B	D	B	41%	40%	
	学生N	A	BD	D	A	C ⁺¹	C ⁺¹	D	D	A	38%	35%
学生D	A	A	D	B	A	C ⁻¹	D	B	35%	30%		
学生R	C ⁺¹	A	C ⁻¹	A	A	AD	A	A	35%	55%		

得点率が最も高い学生 C (80%) の回答を分析した結果、学生 C は、Y が 3・4 拍かつ平板型の場合の規則を、複合して平板型が保存されると間違っ
て回答した。一方、学生 C の「問題一」の回答を見ると、Y が 3・4 拍かつ平板型の調査項目は、ほとんど A 型の複合名詞を選択肢している。Y が 3
拍かつ中高型の場合の規則を、A 型と回答したが、「問題一」の B 型調査項目において、ほとんど正しく B 型と回答した。そして、Y が 4 拍かつ中高
型の場合の規則を、B 型と C⁻¹ 型を回答したが、「問題一」、「問題二」すべて
該当する調査項目において、A 型の回答はかなり多い。学生 C にとって、
規則の選択と実際の運用能力は違うことが予測される。規則は完全に書け
ないが、脳内では無意識に規則を把握しているのだろう。この現象は他の
学生にも観察された。

4 節で取り扱った 4 点の要因は、被調査者の知識を調査していないので、
今後の課題にする。

6. 得点率と日本語学習歴

被調査者全員がN1に合格した上級日本語学習者であるが、日本語学習歴は2年6ヶ月から8年までの間で、かなりの差がある。表15からわかるように、日本語学習歴が長いほど、得点率が高いわけではない。

表15 学生別「問題一」、「問題二」の得点率の順位と学習歴の順位

学生	得点率	順位	学習歴	順位	学生	得点率	順位	学習歴	順位
C	80%	1	5年6ヶ月	9	S	52%	16	3年	13
M	74%	2	6年1ヶ月	6	L	51%	9	5年	11
O	66%	5	7年6ヶ月	2	B	49%	13	8年	1
Q	65%	3	5年	12	E	49%	10	3年2ヶ月	17
I	64%	6	7年1ヶ月	3	H	46%	17	2年6ヶ月	15
P	61%	8	4年	16	K	42%	18	6年	18
G	59%	4	5年3ヶ月	10	A	41%	11	4年	19
J	57%	7	4年	14	N	38%	15	4年	8
F	56%	14	7年	4	D	35%	20	6年	5
T	54%	12	?	20	R	35%	19	7年	7

日本語学習歴が最も長い学生Bは、得点率の順位が13である。一方、得点率が最も高い学生Cは、日本語学習歴の順位が9である。他にも、日本語学習歴の順位と得点率の順位の差が10以上である学生が5人いる。

7. まとめ

上級日本語学習者は、複合名詞のアクセント習得問題について、後部要素が3・4拍で、「1単位の複合名詞」の場合、後部要素の語頭拍にア核を置くという規則は最も習得しやすいことが分かった。しかし、アクセント規則をはっきり把握していないことも分かった。学習者にとって、大きい問題点は以下の2つである：

- (1) 後部要素のアクセントが保存されるのが正しいアクセントの場合は、間違って後部要素の語頭拍にアクセント核を置くという傾向がみられる。
- (2) 後部要素の拍数が長いほど、後部要素のアクセントが保存されずに、核位置がずれたり、平板化したりするなど、間違った複合名詞アクセントを選んでしまう。

参考文献

- 秋永一枝（編）（2015）『新明解日本語アクセント辞典』三省堂
- 上野善道（1999）「複合名詞後部要素のアクセント型保存」『言語と文化の諸相』岩手大学人文社会科学部 pp.159-212
- 北原保雄（編）（2011）『明鏡国語辞典 第二版』大修館書店
- 窪菌晴夫・伊藤順子・A. Mester（1997）「音韻構造から見た語と句の境界 --複合名詞アクセントの分析--」『文法と音声』くろしお出版 pp.147-166
- 松森晶子・新田哲夫・木部暢子・中井幸比古（2012）『日本語アクセント入門』三省堂
- 劉 汝源（2018）「後部要素が3・4拍の複合名詞の核位置保存についてー連濁との関係を中心にー」『第32回日本音声学会全国大会予稿集』pp.72-77
- NHK放送文化研究所（2016）『日本語発音アクセント新辞典』NHK出版

アクセント調査用紙

母語：_____

母方言：_____

以下は外国人の方のみ記入：

日本語の学習歴：_____年_____ヶ月 日本語レベル：JLPT N_____

(なお、知らない単語がある場合には、
後の「知らない単語チェック」の□に✓を入れてください)

日本語標準語（方言で問題に答えないでください）についての質問である：
問題一 次の名詞は、後の（ ）にアクセントが表示されている。他の名詞
と複合して複合名詞（下線部分）になると、複合名詞のアクセントは、選
択肢の **A, B, C, D** のどれになるか。あなたが適切だと思うすべての選択
肢に○をつけてください（複数選択可）。各選択肢は2回ずつ発音する。
(アクセント記号について：＝ は 平板型、音の高さの下がり目がない
┘ は アクセント核位置、音の高さが下がるところ)

「知らない単語チェック」

(知らない場合、✓を入れてください)

↓

- | | | | |
|-------------|-------------|--------------|-------------------------------------|
| 例：文明（ぶんめい＝） | → | <u>古代文明</u> | <input checked="" type="checkbox"/> |
| Ⓐ. こだいぶんめい | B. こだいぶんめ┘い | Ⓒ. こだいぶんめい＝ | |
| ①御田（おで┘ん） | → | <u>味噌おでん</u> | <input type="checkbox"/> |
| A. みそお┘でん | B. みそおで┘ん | C. みそおでん＝ | |
| ②男（おとこ┘） | → | <u>雨男</u> | <input type="checkbox"/> |
| A. あめお┘とこ | B. あめおと┘こ | C. あめおとこ＝ | |
| ③油（あぶら＝） | → | <u>ごま油</u> | <input type="checkbox"/> |
| A. ごまあ┘ぶら | B. ごまあぶ┘ら | C. ごまあぶら＝ | |
| ④化粧（けしよ┘う） | → | <u>薄化粧</u> | <input type="checkbox"/> |
| A. うすげ┘しょう | B. うすげしよ┘う | C. うすげしょう＝ | |

- ⑤ 蛤 (はま ㄅ ぐり) → 焼き蛤 □
 A. やきは ㄅ まぐり B. やきはま ㄅ ぐり
 C. やきはまぐ ㄅ り D. やきはまぐり =
- ⑥ 燒酎 (しょうちゆ ㄅ う) → 芋燒酎 □
 A. いもじよ ㄅ うちゆう B. いもじょうちゆ ㄅ う
 C. いもじょうちゆう =
- ⑦ 大臣 (だ ㄅ いじん) → 総理大臣 □
 A. そうりだ ㄅ いじん B. そうりだいじ ㄅ ん
 C. そうりだいじん =
- ⑧ 月夜 (つき ㄅ よ) → 星月夜 □
 A. ほしづ ㄅ きよ B. ほしづき ㄅ よ C. ほしづきよ =
- ⑨ 一つ (ひと ㄅ つ) → 今一つ □
 A. いまひ ㄅ とつ B. いまひと ㄅ つ C. いまひとつ =
- ⑩ カリフォルニア (カリフォルニア =) → 南カリフォルニア □
 A. みなみカ ㄅ リフォルニア B. みなみカリフォル ㄅ ニア
 C. みなみカリフォルニア =
- ⑪ 日本 (にほ ㄅ ん) → 西日本 □
 A. にしに ㄅ ほん B. にしにほ ㄅ ん C. にしにほん =
- ⑫ 針師 (はり ㄅ し) → 女針師 □
 A. おんなは ㄅ りし B. おんなはり ㄅ し C. おんなはりし =
- ⑬ 先生 (せんせ ㄅ い) → 校長先生 □
 A. こうちようせ ㄅ んせい B. こうちようせんせ ㄅ い
 C. こうちようせんせい =
- ⑭ 申請 (しんせい =) → 加盟申請 □
 A. かめいし ㄅ んせい B. かめいしんせい ㄅ い
 C. かめい = ・ しんせい =

- ⑮撫子 (なで ㄱ しこ) → 大和撫子 □
 A. やまとな ㄱ でしこ B. やまとなで ㄱ しこ
 C. やまとなでし ㄱ こ D. やまとなでしこ =

- ⑯地獄 (じごく ㄱ) → 受験地獄 □
 A. じゅけんじ ㄱ ごく B. じゅけんじご ㄱ く
 C. じゅけんじごく =

- ⑰神宮 (じんぐ ㄱ う) → 明治神宮 □
 A. めいじじ ㄱ んぐう B. めいじじんぐ ㄱ う
 C. めいじじんぐう =

- ⑱カルシウム (カルシ ㄱ ウム) → 塩化カルシウム □
 A. えんかカ ㄱ ルシウム B. えんかカルシ ㄱ ウム
 C. えんかカルシウム =

- ⑲沢山 (たくさ ㄱ ん) → 盛り沢山 □
 A. もりだ ㄱ さん B. もりだく ㄱ さん C. もりだくさ ㄱ ん
 D. もりだくさん =

- ⑳歯車 (はぐ ㄱ るま) → 内歯車 □
 A. ちは ㄱ るま B. ちはぐ ㄱ るま C. ちはぐる ㄱ ま
 D. ちはぐるま =

- ㉑砂糖 (さと ㄱ う) → 黒砂糖 □
 A. くらぎ ㄱ とう B. くらぎと ㄱ う C. くらぎとう =

- ㉒点睛 (てんせい =) → 画竜点睛 □
 A. がりょうて ㄱ んせい B. が ㄱ りょう・てんせい =
 C. がりょうてんせい =

- ㉓提灯 (ちょうち ㄱ ん) → 絵提灯 □
 A. えぢよ ㄱ うちん B. えぢょうち ㄱ ん C. えぢょうちん =

②④生活 (せいかつ=) → 共同生活 □
 A. きょうどうせい かつ B. きょうどうせい いか かつ
 C. きょうどうせい かつ =

②⑤団扇 (うち ㄗ わ) → 岐阜団扇 □
 A. ぎふう ㄗ ちわ B. ぎふうち ㄗ わ C. ぎふうちわ =

②⑥図書館 (としょ ㄗ かん) → 市立図書館 □
 A. しりつと ㄗ しょかん B. しりつとしょ ㄗ かん
 C. しりつとしょかん =

②⑦試験 (しけ ㄗ ん) → 模擬試験 □
 A. もぎし ㄗ けん B. もぎしけ ㄗ ん C. もぎしけん =

②⑧眼鏡 (め ㄗ がね) → 虫眼鏡 □
 A. むしめ ㄗ がね B. むしめが ㄗ ね C. むしめがね =

②⑨境 (さか ㄗ い) → 国境 □
 A. くにざ ㄗ かい B. くにざか ㄗ い C. くにざかい =

③⑩取引 (とり ㄗ ひき) → 現金取引 □
 A. げんきんと ㄗ りひき B. げんきんとり ㄗ ひき
 C. げんきんとりひ ㄗ き D. げんきんとり ひき =

③⑪茶飯事 (さは ㄗ んじ) → 日常茶飯事 □
 A. にちじょうさ ㄗ はんじ B. にちじょうさは ㄗ んじ
 C. にちじょうさはんじ =

問題二 次の名詞のアクセントは、選択肢の a, b のどれになるか。複合した後の複合名詞（下線部分）のアクセントは選択肢の A, B, C, D のどれになるか。あなたが適切だと思うすべての選択肢に○をつけてください（複数選択可）。各選択肢は2回ずつ発音する。

（知らない場合、✓を入れてください）

例：普請（a. ふしん＝、b. ふし ㄱ ん） → 仮普請

A. かりぶ ㄱ しん B. かりぶし ㄱ ん C. かりぶしん＝

①心（a. ここ ㄱ ろ、b. こころ ㄱ ） → 親心

A. おやご ㄱ ころ B. おやごこ ㄱ ろ C. おやごころ＝

②機関（a. き ㄱ かん、b. きか ㄱ ん） → 交通機関

A. こうつうき ㄱ かん B. こうつうきか ㄱ ん C. こうつうきかん＝

③年寄り（a. としよ ㄱ り、b. としより ㄱ ） → 奥年寄

A. おくど ㄱ しより B. おくどし ㄱ より

C. おくどしよ ㄱ り D. おくどしより＝

④若布（a. わ ㄱ かめ、b. わか ㄱ め） → 新若布

A. しんわ ㄱ かめ B. しんわか ㄱ め C. しんわかめ＝

⑤鋏（a. はさみ ㄱ 、b. はさ ㄱ み） → 紙鋏

A. かみば ㄱ さみ B. かみばさ ㄱ み C. かみばさみ＝

⑥正直（a. しょうじ ㄱ き、b. しょうじき ㄱ ） → ばか正直

A. ばかしょ ㄱ うじき B. ばかしょうじ ㄱ き

C. ばかしょうじき＝

⑦剃刀（a. かみそ ㄱ り、b. かみそり ㄱ ） → 電気剃刀

A. でんきか ㄱ みそり B. でんきかみ ㄱ そり

C. でんきかみそ ㄱ り D. でんきかみそり＝

⑧巾着（a. きんちゃ ㄱ く、b. きんちゃく ㄱ ） → 腰巾着

A. こしぎ ㄱ んちゃく B. こしぎんちゃ ㄱ く C. こしぎんちゃく＝

⑨卵 (a. たま ㄟ ごと、b. たまご=) → 温泉卵 □
 A. おんせんた ㄟ まご B. おんせんたま ㄟ ごと C. おんせんたまご=

⑩地方 (a. ちほ ㄟ う、b. ち ㄟ ほう) → 関東地方 □
 A. かんとうち ㄟ ほう B. かんとうちほ ㄟ う C. かんとうちほう=

⑪所帯 (a. しょた ㄟ い、b. しょ ㄟ たい) → 新所帯 □
 A. しんじょ ㄟ たい B. しんじょた ㄟ い C. しんじょたい=

⑫金持ち (a. かねも ㄟ ち、b. かねもち ㄟ) → 大金持ち □
 A. おおが ㄟ ねもち B. おおがね ㄟ もち
 C. おおがねも ㄟ ち D. おおがねもち=

⑬海原 (a. うなばら=、b. うな ㄟ ばら) → 大海原 □
 A. おおう ㄟ なばら B. おおうな ㄟ ばら
 C. おおうなば ㄟ ら D. おおうなばら=

